

小村雪岱の舞台装置の詳細リスト作成

大阪芸術大学 文芸学科 特任教授 真田幸治

【研究の目的】

本研究は、小村雪岱（1887-1940）が手がけた舞台装置および意匠考證の仕事について、その全体像を明らかにするための基礎資料として、詳細かつ体系的な目録を作成する事を目的とするものである。

従来、雪岱の舞台装置に関しては、雪岱没後に開催された「故小村雪岱氏遺作展」のパンフレットに付された年表が基本資料として参照されてきたと思われる。しかし、この年表を元に制作したと思われる『小村雪岱作品集』（阿部出版、2010年）の作品年表の舞台装置の項目においては、その記載には不正確な点や記述の揺れ、さらには重要な演目の欠落も見受けられる。また、演目名の略称表記や、舞台装置・意匠考證といった業務区分の曖昧さもあり、研究資料として用いるには精査が必要な状態にあった。

本研究では、筋書、番組、チラシ、演劇雑誌、新聞記事等の一次資料を精査し、演目名の正式表記への統一、上演年月日や劇場名の確定、関係者情報の補完を行うとともに、舞台装置・舞台装置原案・意匠考證といった業務内容の区別を明確化した目録を作成する。これにより、従来分散していた情報を統合し、雪岱の舞台美術活動を網羅的かつ精度高く把握可能な基盤を構築する。

さらに、この目録化作業を通じて、雪岱の舞台装置における活動の時期的変遷、特定の歌舞伎俳優・演出家との関係性、文学作品との関わりなどを検討するための基礎データを整備することを目指す。最終的には、装幀・挿絵と並ぶ雪岱の重要な仕事領域として舞台装置を位置づけ、その総合的な美術活動の実像を明らかにすることを目的とする。

【これまでの研究成果について】

これまでの研究においては、主として装幀および挿絵を中心とした商業美術分野における雪岱の活動を対象とし、『日本古書通信』における「小村雪岱装幀本目録」全五回（2019-2020年）や『小村雪岱挿絵集』（幻戯書房、2018年）の刊行、『日本古書通信』における連載「小村雪岱とその周辺」「小村雪岱の雑誌表紙絵」等を通じて、作品群の発掘と実証的分析を継続的に行ってきた。

とりわけ装幀における〈雪岱文字〉の研究では、春陽堂版『鏡花全集』をはじめとする具体的事例の分析を通じて、文字と絵画が不可分に構成される雪岱独自の造形意識を明らかにした。また、雑誌表紙や挿絵の検証においては、同時代の画家・デザイナーとの比較を通じて、近代日本における商業美術の中での雪岱の位置づけを再検討してきた。

こうした一連の研究により、雪岱が単なる日本画家にとどまらず、書物や雑誌といった複数の媒体を横断して活動した総合的な視覚表現者であることが明ら

かとなってきた。一方で、その活動の重要な一角を占める舞台装置については、個別作品への言及や断片的な紹介にとどまり、網羅的かつ体系的な整理は十分に進んでいなかった。

しかしながら、筆者はこれまで約20年にわたり、番付・筋書・演劇雑誌等の一次資料を継続的に蒐集しており、近年それらの整理と分析が進展したことで、舞台装置に関する包括的な再検証を行うための基盤が整ってきた。このような研究蓄積を踏まえ、本年度は舞台装置に関する体系的整理に本格的に着手するに至った。

【今年度の主な研究成果について】

今年度は研究では、小村雪岱の舞台装置および意匠考證の仕事を中心に体系的に整理、作成した「小村雪岱舞台装置目録」（『日本古書通信』2024年5月-9月）を整理し、その詳細版を作成した。本目録は、従来参照されてきた遺作展年表を基礎としつつも、それに依拠するのではなく、筋書・番組・チラシ・演劇雑誌・新聞記事等の一次資料との照合を徹底することで、記載内容の再検証を行った点に特徴がある。その結果、従来の年表では把握されていなかった演目を多数補完するとともに、演目名の正式表記への統一、上演年月日や劇場名の精確化、場面名の追加など、基礎データの信頼性を大きく向上させることができた。

さらに、本目録では舞台装置・舞台装置原案・意匠考證といった業務内容の区分を明示し、原作・脚色・演出・出演者などの関連情報を付加することで、単なる一覧にとどまらず、上演状況と美術的関与の関係を読み取ることでできる資料として再構成した。この整理により、雪岱が舞台装置において果たした役割の多様性、すなわち装置制作に加えて考證や視覚設計にも関与していた実態が具体的に明らかとなった。

また、時系列に基づく整理を行ったことで、特定の原作者や歌舞伎役者との継続的な関係、特定の作家らの作品を中心とする文学作品との結びつき、さらには再演時における上演形式の違いなど、舞台美術の動態的側面についても新たな知見を得ることができた。これにより、雪岱の舞台装置が単発的な仕事の集積ではなく、時代的文脈の中で展開された継続的な創作活動であることが明確となった。

『日本古書通信』での連載は紙幅の制約上、情報量を抑えた簡易版としての発表にとどまるが、既に詳細版の準備を進めており、場面名も加え充実させた形での刊行を予定している。本研究は、これまで未整備であった雪岱の舞台装置研究の基盤を構築するものであり、今後の研究の進展に資する基礎資料として重要な意義を有するものと考えられる。